2018 年 8 月 16 日

「環境過敏症分科会」活動計画

１．背景と目的

近年、世界的に環境過敏症(環境不耐症)と呼ばれる健康障害を訴える人の急増が問題になっている。環境過敏症とは、通常では問題にならないような身の回りの微量な化学物質（タバコ煙・化粧品・医薬品・殺虫剤・芳香剤等)、生物的要因（カビ・ダニ・花粉等)、物理的要因（音・光・電磁波等）により、多器官に多彩な症状が現れる健康障害の総称であり、その病態は科学的に不明なことが多い。代表例はシックハウス症候群、化学物質過敏症、電磁過敏症であり、これらの健康障害は相互に密接な関係がある共に、アレルギー疾患とも密接に関係していると考えられている。また、環境過敏症は生活習慣病同様に、生活環境中の様々な環境要因が、遺伝要因、身体要因などと複雑に絡み合って発症する健康障害ではないかと指摘されている。そこで、その病態解明、診断基準の確立、治療法・予防法の確立に関しては、幅広い専門分野の研究者が情報を交換し、共同研究を行いながら、試行錯誤で検討する以外ないと考える。

本分科会の目的は、日本における環境過敏症患者の実態を解明し、世界の研究者と情報交換しながら、科学的に未解明な環境過敏症の病態解明、診断基準の確立、治療法・予防法の確立をめざすための基礎的研究を行うことである。

２．活動計画

(1) 学術集会には、各メンバーの日ごろの研究成果を発表し、意見交換を行う。
(2) 学術集会時以外に、年１回以上、会合をもち、テーマを決めて研究者同志で学際的意見交換を行う。初年度は、お互いの研究内容を報告し合い、今後の共同研究などについて議論する。
(3) メーリングリストを通して、環境過敏症に関する基礎的な知識・情報・文献および現状に関する調査結果などの情報交換・共有し、メンバーが分担して整理する。
(4) １年間の活動内容をまとめて、翌年の学術集会時に発表（ポスター形式等）する。
(5) 将来的には、学際的な報告書の作成をめざす。

３．分科会 代表者：北條祥子、副代表者：水城まさみ